

新年度開始、フレッシュな顔ぶれで臨む学院

特集 国際協力	2-3
卒業式	3
学長退任にあたって	4
学長就任にあたって	4
就任挨拶	5
教育・研究に新しい風	工学部
学習・努力の成果を披露	6
情報デザイン学部	7
新たな試みで社会を築く	現代社会学部
先輩をモデルに明日へ発進	短期大学部
高校から発信	10-11
女子学生頑張る	12
施設紹介	12
広島市民賞を受賞 一広島銘水研究会一	13
本学院学生生徒の活躍	13
進路状況	14-15
大学機関別認証評価(第三者評価)認定される	16
学生講師、どきどきデビュー	16
今後の主な行事予定	16

3DCGアニメーション「avenger」  
 情報デザイン学科 第2期生（平成21年3月卒業）  
 情報デザイン学部研究生（平成22年3月修了）  
 出本 敬明（呉宮原高校出身）制作

広 報  
 第81号  
 平成22年4月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>  
 ※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

# 国際協力

## シエラレオネ共和国で教育調査（その2）

地域連携センター 石坂 広樹



身近な物で実験器具を作る研修

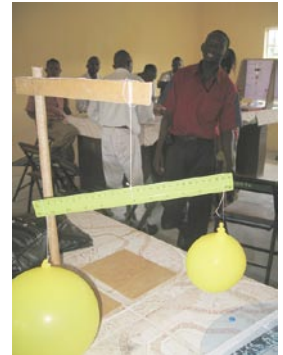
今回は、昨年8月上旬に、地方出張でボンバリ県マケニ市で行われた研修を視察した際のお話をします。この研修では、理数科の小学校・中学校教員に対し実験を取り入れた授業(実習)の仕方についてレクチャーされました。レクチャーをする講師は、同じく小学校・中学校の教員ですが、すでにガーナやケニアで1か月以上にわたり同じ研修を受けた方々です。計9名の講師がいました。

ここシエラレオネはアフリカでも最貧国。理科の実験道具や数学に必要な器具(分度器・立体図形)などが極端に不足しています。もちろん電気のある学校はごくごく少数です。そこで、先生たちの研修内容は「実験器具を身の回りのものから創る」ことを中心テーマとしていました。例えば…

1. アルコールランプがないので、缶と木炭で即席ランプをつくる。
2. 光が熱をもたらすこと、特に黒がより熱を溜め込むことを実験する。
3. 時間を割り出す授業につかうための時計を紙で作成する。
4. のこぎりがないのでナイフとトンカチで対応する。
5. 水と油が混ざらないという性質を確かめるためにペットボトルや点滴廃材(本当はあまりよくないと思いますがかなり有効)を使って器具を作成する。
6. 手を使った九九の覚え方を画用紙に描く。
7. 空気にも重さがあることを確かめるための即席天秤をつくる。

研修はさながら図工の授業のようでした。しかし、これはあくまで理科・数学の授業を分かりやすくするための試みです。今までは、「実験器具がないからよい授業ができない」という固定観念から、なんでももらうことばかりを考えていた先生方も、「あるものを使えばできることもある」という気持ちに変わっていきました。

また、この度新たに教員研修プロジェクトの終了時評価業務をJICAより受託し、2月16日～3月22日まで南米ボリビアに派遣されました。同国での活動を今後ご報告できればうれしいです。



まるで図工？  
いろいろな実験器具

## 向学心あふれるハルピンの学生たち

— 友好協定校の恒星学院で日本語講師として授業を担当 —

教授 沼野 治郎



ハルピン師範大学恒星学院キャンパス

昨年9月から今年7月まで私は中国黒竜江省ハルピン市にあるハルピン師範大学恒星学院で、中国言語学部の2年生4クラス、3年生3クラスに日本語を教えています。この学院は市街地をはるか北に離れた郊外にあり、学生たちはキャンパス内の寮に住んでいます。将来中国語を日本人に教えることを目標とした学部で、学生の9割以上が女性です。私は主に日本語会話を担当し、週10コマ教えています。9月からの1学期が12月に終り、3月から2学期が始まります。

恒星学院はハルピンをはじめ黒竜江省など中国の東北地方からの学生が多く、皆明るく人懐っこい子たちです。また礼儀正しく全般的に勉強熱心です。クラスの人数は30～40人で語学の授業には多いですが、よく聞いてくれ声に出して復唱もしてくれるのでよい

授業が展開できているのではないかと考えています。授業は大体日本語ですが、時折必要に応じて中国語を交えて行なっています。

授業で俳句を作る課題があって、手ほどきの結果次のような句を詠んだ学生がいました。

わが町に静かに響く春の音	こう	ずいせつ
湖に逆さに映る君の影	高	瑞雪
和服好き行きたい日本いつの日か	ねい	やく
	寧	躍
	り	びれい
	李	美玲

将来恒星学院の学生が本学院に留学生として学ぶ日が来ることを念願しています。



授業の様子



## 卒業生が青年海外協力隊に —増村さん、マーシャル諸島派遣—

本大学の卒業生である増村雅司さんがこの度、JICAの青年海外協力隊員に見事合格し、本年3月よりマーシャル諸島共和国にボランティアとして派遣されました。増村さんからのコメントを以下に紹介します。ブログも是非ご覧ください。  
(<http://ameblo.jp/masumura0427/>)



青年海外協力隊員に合格した増村さん

本大学情報学部情報工学科卒業生の増村雅司と申します。私は平成20年12月に「地球の歩き方(海外ボランティア)」に参加し、1週間インドネシア共和国のバリ島に行き、孤児院を訪問して子どもたちと一緒に遊ぶなどの文化交流をしました。この活動を通じて途上国の現実を知り、何か私にできることはないかと考えるようになりました。

そんな時に会ったのが「青年海外協力隊」でした。昨年4月に募集が始まったので大学に伺い、卒論をご指導いただいた青井先生(情報デザイン学部)に相談しました。そして国際協力に詳しい石坂先生(地域連携センター)や協力隊OGである川崎先生(総合教育センター)を紹介していただきました。それから3ヶ月間大学に通い、書類の書き方や英語についてさまざまな指導を受けました。その結果、昨年8月に見事「青年海外協力隊」の合格を勝ち取ることができました。

本年3月からマーシャル諸島というところで2年間理数科教師としてボランティア活動をするようになっていきます。さらに英語を磨きつつ、理数科教育の基礎をしっかりと身につけていきたいと思っています。私にとって今回の派遣が、途上国やボランティア活動について「知る」ための「はじめの一歩」となるよう願っています。帰国後は在学生の皆さんに現地での活動については是非ご紹介したいと考えています。



卒業証書授与式

### 【高校】

空気は春の潤いを帯び、寒気で固くなっていた気持ちも和らぐ3月1日。第61回卒業証書授与式が本高校体育館にて、厳粛に挙行されました。

9時30分、緞帳が静かに上がり始めたその時「あっ」と驚嘆の声が漏れます。前日の予行時にはなかった春の花々がステージを明るく彩っています。巣立つ生徒への祝福と惜別を込めた舞台装置に卒業生は万感の思いで見入ります。

総合システム科112名、普通科220名、計332名の名前が響き、荻野次夫校長から学科代表へ卒業証書が手渡されました。荻野校長は「感謝の心を常に持ち、大地にしっかりと足をつけた生き方をして欲しい」と、卒業生に饒の言葉を贈りました。

吹奏楽部による「蛍の光」が流れる中、卒業生は笑顔、涙顔、それぞれの表情で退場しました。恩師や保護者と校庭で、あるいは竣工間近の「ふれあい橋」を背景に友だち同士で写真を撮り合うなど別れを惜しんでいました。

### 【大学・短大】

穏やかな日差しに誘われて桜のつぼみもふくらみ初めた3月19日、平成21年度大学・短大合同卒業証書・学位記授与式が厳粛に、かつ盛大に執り行われました。

今村詮学長は式辞で「これから出て行く社会では厳しい状況に置かれることもあります。自己を見失わず、生き甲斐ある人生を送っていただきたい。そのため常に向上心を持つとともに、バックボーンとなる知識の習得に努め、思考力を高めることを希望します」と述べ、これから社会に巣立つ若人を祝福しました。恩師や学友との別れを惜しみながらも将来への希望に満ちて、卒業生たちは学舎を後にしました。



卒業証書・学位記授与式

# 卒業式

## 学長退任にあたって

今村 あきら 詮



### — 全教職員の皆様に感謝して —

5年前の学長就任にあたっての挨拶では、全教職員に学生の目線に合わせた教育をするための意識改革を強く要望しました。かなりその方向に変わってきたことは感じますが、私の力不足、リーダーシップ不足にもより、残念ながらまだ十分であるという状態にはなっていません。すなわち、学生が自発的に出身高校に行って本学に進学してきてよかったと言い、それを聞いたその高校の後輩が入学してきたという話は、残念ながらそれほど多くは聞かないからです。その結果、在籍学生数が減少するという大変厳しい状態が続いています。私の能力不足により、このような事態になったことについて、責任を感じ、申し訳なく思っております。

この意識改革と並行して、いくつか入学者数を増やす試みをしてきました。すなわち、まず女子学生の増加を目指し、理事長先生にも種々手を打っていただき、努力しましたが、残念ながらさしたる大きい成果が上がっていません。また、主としてバイオ・リサイクル専攻の先生方のご尽力により、国公立大学の大学院進学者を増やす努力をして徐々にではあるが成果が上がってきています。さらに教育内容の充実を目指し、個人的な指導のウエイトを増し、習熟度別に私塾的教育を推進し、私自身もその中の一員として努力してきました。今後奥田新学長のもと、この方向への教育をより一層の意識改革とともに進めるならば、必ず道は開けるものと信じています。広島国際学院大学および自動車短期大学部の発展を祈り上げます。

## 学長就任にあたって

奥田 勉



### — 光り輝く大学を目指して —

18歳人口の減少は一段落したものの、大学新設や学部新設は相変わらず続き、学生の奪い合いは厳しさを増しており、学生の集まらない大学が次々と募集停止に追い込まれています。一方では大学全入時代を迎え、学士課程教育の構築や第三者評価の義務化などによって大学の質的向上の努力が求められています。このように、現在の日本の大学は厳しい競争と淘汰の時代を迎えているのです。このような時代の学長としては、アメリカのように大学経営のプロが相応しいのですが、私のように教育研究一筋で過ごしてきた者にとっては本当に辛いポジションであることは間違いありません。本学に来て一貫して自己点検・評価に携わってきたので、その経験を活かして大学運営をすることが求められた結果選ばれたのだと思います。引き受けたからには全力を尽くすよう努力したいと思っています。

これまで本学は学生の目線にあわせた教育を目指してきましたが、これからも同様に、きめの細かい丁寧な教育をして、社会人基礎力と就職基礎能力を養う必要があります。そのためには教職員が一丸となって実効性のある目標を設定し、持続的な努力を続けなければなりません。多様な学生をしっかりと教育して、就職まできちんと面倒を見る大学という評判を学外に定着させたいと考えています。学生も教職員も生き生きとした大学、小粒でも光り輝く大学を目指したいと考えています。教職員の皆さんご協力をお願いいたします。



## 情報デザイン学部長 就任にあたって



横澤 肇

この度、情報デザイン学部長に就任するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。本学部は2008年に情報学部を改組再編して以後日も浅く発展途上にある学部であり、この時期に学部長の重任を預かることの責任の重大さを強く受けとめております。天然資源に恵まれない我が国で人材育成は大学が担う重要な使命の一つであり、本学は、視野が広く社会性に富み、実学指向の専門知識・経験を社会で活用できる人材の育成、を教育目標としています。明るい未来に向けて有能な卒業生が輩出するよう、情報デザイン学部の一層の発展に微力を尽くす所存です。皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 高等学校校長就任にあたって



太田 茂

総合学科が新設され、広島国際学院高等学校が新たな時代を迎えようとするこの時期、第11代校長に就任することとなり、職責の重さに身の震える思いがいたします。歴代の校長先生方が築かれた伝統を守り、さらなる発展に努力を払う所存でございます。

私どもが目指す学校は明るく楽しい、感動が溢れる学校です。教職員のたゆまざる教育活動により地域社会に認知・期待される学校へと成長し、さらに発展する勢いを感じます。それは、「教育は愛なり」の建学精神が今日まで連綿と受け継がれ、愛に満ちた教育が施されてきた証左でもあります。地域社会から一層の支持を得られるよう、研鑽を積みみたいと思います。

教職員、同窓会、保護者の皆様、地域社会の方々にもご協力をいただき、本高校の文化の継承と改革を進めたいと思っております。関係各位のご協力とご指導をお願いし、校長就任のご挨拶といたします。

## 短期大学学部長就任にあたって



ちな  
知名 宏

この厳しい状況下で短大部長就任を仰せつかり、責任の重大さを感じております。魅力ある短大作りを目指し、皆で継続して取り組んできた活動の成果にはかすかに光が見えてはきたものの、まだ安定した教育研究活動を展開できる環境にはなっておりません。本学には国家資格取得という明確な目標があり、学生諸君をその方向に導きながら教職員全員が力を合わせて、たゆまぬ改善活動を推進し、地域社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいきたいと考えます。全職員の皆様のご支援をよろしく願いいたします。

## 高等学校教頭就任にあたって



森崎 恒夫

このたび高等学校教頭に就任することになりました。工業科教員として本高校に勤務させていただき、30年が経過しようとしています。この間に、工業科は2度に渡る改編と廃止、そして新たな総合学科の誕生へと大きく移り変わりました。高校入学者数の大幅な減少や普通科志向の中で、本高校が安定して入学者数を確保するためには、独自の特色教育の推進とそれを担う教師集団の組織作りが不可欠です。

幸い、本高校は諸先輩の先生方のお力により、年々その評価を上げ、やっと選ばれる学校に仲間入りしたように思います。その地位を不動のものとし、さらに評価される学校にするために、精一杯努力してまいりますので、皆様方のご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

## 留学生のフィジットさん、博士号を取得

タイ王国との学术交流・共同研究協定により、交換研究生として来日したチェンマイ大学農業生産学部講師のフィジット シイスリヤチャンさんが平成21年12月15日、本大学院博士課程の学位論文発表会を行いました。

牛乳、ヨーグルト製造などの乳製品工場排水からカゼインという蛋白質を回収する新しい方法を考案し、実用化できるところまで研究を進めました。排水処理ばかりでなく、食品にふくまれる食用色素まで分解・除去できることを明らかにし、世界的にも著名な雑誌に論文が掲載されるなどすばらしい成果を含む論文となりました。

本大学一同、フィジット博士の今後の活躍を期待しています。



研究成果を発表するフィジットさん



原爆献水、景浦名水を採水する  
広島銘水研究会会員

## 合同産業(株)創立50周年記念事業実施報告

合同産業(株)の50周年記念事業の一環として、本大学と「水耕栽培による屋上緑化の実証実験」「広島原爆献水の水質保全と水環境保全」など4テーマの産学協同事業に取り組みました。

「水耕栽培による屋上緑化の実証実験」においては、本大学学生らとともに、合同産業独身寮屋上にミニトマト栽培設備を設置。屋上環境の景観を改善するとともに、エアコンの電力消費量削減について研究が進められました。熟したトマトは地域の子供たちと収穫祭を行い、エコで美味しい体験も可能にしました。その模様はTVでも紹介されました。

また「広島原爆献水の水質保全と水環境保全」では、毎年8月6日の平和記念式典で原爆献水に使われる市中15箇所の水質を、22年にわたり広島銘水研究会が分析したデータをリーフレットとして発行するため編集を行い、近く出版も予定されています。特に定点観測で明らかとなった水質汚染や里山荒廃による大腸菌の増加など、ヒロシマの水環境の変遷を把握できる貴重な資料集となっています。

平成22年度も脱臭・殺菌、壁面緑化等の住環境関連技術について新たに取り組む予定です。

## 地域との連携による理科・ものづくり教育の推進

「理科離れ」が取りざたされる現状を踏まえ、本大学は地域との連携による「ものづくり」活動を主体とした理科教育やものづくり教育の推進を図ってきました。

まず、福山工業高等学校との高大連携事業の一環として、廃棄物からのリサイクルに関するものづくり体験実習を本大学中野キャンパスで実施。その成果は1月29日、ふくやま芸術文化ホール リーデンローズにて開催された「学習成果発表会」において発表されました。

また、マツダ財団より採択された市民活動支援(採択課題：小学生が楽しく実習して理科好きになる「地域と大学とのコラボによる竹炭・竹酢液・竹塩作り体験」)の一環として、竹炭の製造方法を学習するとともに、竹炭を用いた空気電池の製作を実施。従来の空気電池よりも小型で軽量の電池を製作する事ができました。さらに合同産業(株)からの支援の下、怪獣ロボットの製作、トーマス機関車、R2D2の修理・改造など多くの作業に本大学1～4年次生までの学生が携わりました。この活動によって製作された(生まれた)ロボットたちは、地域の祭りやイベント等で大勢の市民と触れあいました。

今年度も、地域に根差した理科・ものづくり教育活動を推進します。



福山工業高等学校の「学習成果発表会」



怪獣ロボットを制作中の学生



# 情報デザイン学部

# 学習・努力の成果を披露

## 情報デザイン学科 第3回卒業制作選抜展



親子連れをはじめ大勢の人が見学に訪れた



ゲームに興じる参加者



学生渾身の作品に子どもたちの目も輝く

2月19日から21日の3日間、情報デザイン学科の第3回卒業制作選抜展が立町キャンパスで開催され、アニメーション、映像、ゲーム、Webデザイン、デザインの各ジャンルで作品が展示されました。

19日には、基調講演を名古屋大学大学院情報科学研究科の茂登山清文先生（もとやま しみづ）にお願いし、テーマは「情報デザインと写真」でした。この講演は2年生の「情報デザイン特論」の授業も兼ねており、100人近い学生が受講しました。20日と21日には「缶バッジ制作」と「オリジナル置き時計制作」のワークショップがそれぞれ行われ、小学生を中心に定員を超える参加者があり、未来のデザイナーやクリエイターが熱心に制作しました。

学生たちが考えたテーマ『My Canvas — 明日へ色鮮やかに —』には、3期生が歩む道を白いキャンバスと考え、卒業制作展でそれを学生の作品で彩ろうという意味が込められています。また、卒業制作展を新たな一歩として、自分自身の白いキャンバスにも筆入れをしようという思いも込められています。

今年のチラシと選抜集のデザインは、宇山道子さん（島根県立大東高校出身）が担当しました。

今年のチラシと選抜集のデザインは、宇山道子さん（島根県立大東高校出身）が担当しました。



広島国際学院大学  
情報学部 情報デザイン学科  
第3回卒業制作選抜展  
<http://www.hkg.ac.jp/rid/exhibition/2010/>

**My Canvas**

～明日へ色鮮やかに～

2月19日(金)-2月21日(日)  
10:00-19:00  
最終日は17:00まで

広島国際学院大学 立町キャンパス  
広島国際学院大学 立町キャンパス

情報デザイン学科  
第3回卒業制作選抜展チラシ  
(宇山道子さんデザイン)

## 情報工学科卒業論文発表会

情報工学科3期生の卒業論文発表会が2月17日、中野キャンパスマルチビジョン教室で行われました。全24件の発表があり、討論も熱心に行われました。学生が司会者となり、会場から質問が無い場合は司会者が質問するという学会発表形式で行われました。各発表の終了後には熱心な拍手がわき起こりました。教員が発表優秀者のアンケートを取り、それを基に優秀研究者を1位から3位まで選出、卒業式で表彰しました。



卒業論文発表会

# 新たな試みで社会を築く

現代社会学部

## 選手に捧げるCD発売 —大学院ゼミの演習で制作—

本大学大学院現代社会学研究科では、マーケティング研究の一環として、コンテンツビジネスの本質を探り、あわせて本領域でのさらなる可能性を探ることを目的に、プロ野球選手を題材にした楽曲(CD)を制作し、実際に発売するというプロセスを実践しました。

2月3日に発売のCDは、「クリーンヒットをもう一度」というタイトル。ケガにより昨シーズン一度もファンの前に姿を見せることのなかった広島東洋カープの前田智徳選手をテーマにした楽曲が収録されています。

作詞は、本学部の迫勝則学部長。作曲は広島出身の歌姫ayaさん(LOVERIN TAMBURIN)。LOVERIN TAMBURINのリーダー AKIHIROさん(長尾晃裕氏)が本学部の出身者という関係もあって、両者のコラボレーションが実現しました。

まだデモテープの段階から曲選びに参画させていただいたり、ジャケットデザインの素案に意見させていただいたり、とても貴重な体験ができました。将来は母国中国でのアニメビジネスに関わっていきたいと希望していますので、日本でのコンテンツビジネスのプロセスを体験できたことは、私にとってとても有意義なことでした。

馬 薫さん(現代社会学研究科博士前期課程、中国北京市出身)



## ガッツ石松先生さよなら講義 —学生に贈る心のメッセージ—



ガッツ石松先生(左)と横山アナウンサーの軽妙な対談

12月9日、上瀬野キャンパス300人教室において、ガッツ石松客員教授とRCCアナウンサーの横山雄二さんの対談形式による演習がおこなわれました。

「プロフェッショナルな世界」を通して、学生自身の目標や職業についての考えを深めることを目的に開かれた今回のガッツ石松先生の講義。プロボクサーとして俳優として、一流の職業人であるガッツ石松先生の魅力を、横山さんがプロアナウンサーとして楽しく面白く引きだし、充実した時間となりました。

恒例の漢字メッセージは、中心に“心”という字がある『愛』。「愛されるときには必ず心がある。自分が嬉しいと感じることを相手にしてあげられる人になってほしい」という言葉はガッツ石松先生の人柄をそのまま表しているようでした。

また、「運はさびしがり屋だ」ということも。「運は、頑張っている人に寄ってくる。内面をしっかりと磨き続けることで、『運』がどんどん寄ってきて、自分の力でできないことも、周りと一緒に押し上げてくれる。どうか、この大学で学んだことを誇りに頑張っていくてください」という心からのメッセージを贈っていただきました。



白板に書いて説明するガッツ石松先生



卒業論文発表会

## 卒業論文発表会を開催

2月6日、立町キャンパスで、恒例の卒業論文発表会が行われました。様々な視点から取り組んだ興味あるテーマに沿って、発表者7名が前半後半2部で発表した後、質疑応答では予定された時間を過ぎることも忘れ活発なやりとりがありました。

池本、高畑両教員からの講評も、限られた時間内にしっかりとまとめた内容と熱心さに高い評価を受けた発表会となりました。



## 卒業生チームが準優勝

—第8回マツダオートザムサービス技術大会中国大会で—

昨年10月に行われた第8回マツダオートザムサービス技術大会中国大会において、本短大の卒業生である菅坂鉄也さんと曾我部竜太さんの2人がコンビを組んだ「マツダオートザム海田」チームが見事総合準優勝を果たしました。

アドバイザー部門に出場した菅坂さんは「仕事が終わってからテスト勉強や実技の練習をしたので疲れましたが、先輩方も遅くまで練習に付き合ってくれました。結果を聞いて心から嬉しかった」と喜びを語りました。一方、エンジニア部門に出場した曾我部さんは、「短大で学んだ電装のトラブルシューティングはと



中国大会で準優勝に輝き喜ぶ  
左から小沢店長、曾我部さん、菅坂さん、小沢社長

ても役立ちました。車体電装が苦手な学生が多いけれど、実際の仕事でも技術大会でもこれが主になります。苦手意識を克服できれば、社会に出てから大きな力になると思います」と後輩を励ましていました。

マツダオートザム海田の小沢義弘社長は「過去に何度も上位入賞し、大会経験者は後輩の選手に繰り返し特訓を行います。やる気を持たせるため、メーカー講習などにも積極的に参加させています」と話しました。また、店長の小沢茂夫さんは「曾我部さんは向上心旺盛でどんな仕事にもチャレンジする姿勢に感心します。修理内容の説明なども上手で、お客様に気に入られる整備士になっています。菅坂さんは真面目で人の意見を素直に聞きます。先輩のアドバイスをきちんとやりきった成果が好成績につながったのでしょ」と、健闘した二人を讃えました。



賞状とトロフィー

## 新方式導入で収穫、進路に迷いなし — 学内会社説明会を開催 —

来年春の卒業生を対象とした「学内会社説明会」が2月1日と2日の両日、自動車短期大学部で実施されました。特に今年から学生の要望を踏まえ、「全社・全員参加方式」に則り学生の希望する企業の説明を聞く「ブース方式」に変更しました。

今回は主に県内のメーカー系ディーラー、一般整備企業、製造業、技術開発企業、全国規模の損保系や特殊自動車整備会社、自動車機器製造販売、自動車メーカーなど56社(78名)が参加。自動車整備士の資格や短大としての専門知識を活かせる多様な企業を、昨年より多く呼び出すことができました。



真剣な表情で担当者と面談

「ブース方式」の説明会は個別に話が聞け、質問もできることから「社員待遇や社内教育制度、福利厚生」「会社の将来性」など、学生は大きな収穫を得たとのこと。

これから採用試験に向けて、進路先の迷いも払拭されたのではと感じています。ただ、昨年来の自動車販売の落ち込みによる求人数の減少で採用人数が絞られ、学生にとっては非常に厳しいものになっています。

## 特色教育にむけて 総合学科が始動します

4月から本高校では、総合学科がスタートします。中学生人口の減少、公立高校の無償化と私学にとっては大変厳しい社会状況になってまいりました。このような中で、様々なニーズに応える教育活動は私学の生命線でもあり、発展の鍵となるものです。普通科と総合学科の2つの学科を持つことは本高校においては大変大きな意義があります。「時代は普通科指向」とはい

うものの、キャリア教育や将来を見据えた専門教育は、視野の狭い今頃の子供達にとって最も大切な学習です。また、入学してくる生徒に、一般教科の学習だけで、興味・関心を引き出し、自主的学習を促すことは大変難しい現状があります。本高校総合学科はこれらの問題点を解消し、これからの時代を生き抜く、「真の力」を育てる特色教育を推進します。

さて、学院広報77号(平成21年4月発行)で本高校の総合学科について紹介しましたが、再度、その特色について触れてみます。一つは大学進学のための学習に加えて、情報や簿記の資格取得を行い、学力と実務力の両面の指導を行います。資格は一生の財産となります。この資格取得は職業の選択だけでなく、国公立大学をはじめ多くの大学受験に生かすことができます。

二つ目に高大連携授業の推進です。大学の先生による講座を開設し、高校では学べない専門的な知識や、工業立国日本の先端技術の話など、聞いてみたい・興味ある内容が満載の講義です。このことは、将来の進路設計に大いに役立つものと確信しています。予定講座は、「先端科学、マーケティング、バイオテクノロジー、国際関係法Ⅰ・Ⅱ、異文化論、中国語会話」などです。

本高校総合学科では他校との差別化をはかる為に、これらの特色教育を推進すると共に、何事にも主体的に行動できる力を身に付けることを主眼に、単に教科の問題を解く力ではなく、論理的思考力や自分の考えを表現する力を育成します。さらに社会に対する関心を持ち、その中に課題を見つけて解決していこうとする姿勢を養います。また、社会で活躍している様々な分野の人々の講話を通して、「社会に貢献できる生き方とは何か」を考えていきます。

最後に、昨年から入試広報室を中心に総合学科の募集活動を行ってまいりましたが、総合学科を希望する中学生の数も多く、この期待に応えられるように中身の充実を図っていく所存です。



総合学科開設を知らせる懸垂幕

## 校内献血

保健環境部 瀬越 徹

毎年1月に2・3年生を対象として実施をしている「校内献血活動」も今回で22回目を迎えることとなりました。献血バス2台を終日稼働させることで、1日のみの実施に変更しました。1月14日当日は130名の受付があり、48名が比重不足などで協力いただけませんでした。82名の生徒・教職員・PTAの方々が献血をしました。特に、すでに18歳になっている3年生には400mlの献血協力を快く引き受けていただき、日本赤十字社の方も大変感謝をしておられました。ちなみに、18歳未満の人の献血量は200mlと決められております。



「命」を大切にする思いで献血に協力

現在、多くの方が病気や不慮の事故などで輸血を必要としています。特に寒くなるこの時期は血液が不足するそうです。この活動は今後も引き続き実施していきます。一人ひとりが「命」を大切にする思いを持って、少しでも多くの生徒が献血活動に協力することを期待しております。



## ゴルフ部二題

長谷川 祥平 君

(普通科2年 廿日市市立大野東中学校出身)

日本ゴルフ協会は、3月4～9日の日程(in グラム)で、2010年度男子ナショナルチーム/育成選手合同春季合宿に、長谷川君を選出しました。

この合宿は、朝7時に朝食、8時からトレーニング、昼はラウンド、夜はルールやテーピングなどの講習会と、過密で過酷なスケジュールでした。この合宿での経験が、これからのゴルフに反映されることを期待しています。



瀬野川カンツリークラブで練習する  
久志岡君(左)と長谷川君

久志岡 俊海 君

(普通科3年 広島市立仁保中学校出身)

第9回日韓対抗中学・高校生ゴルフ選手権大会(3月27日～4月1日)に、久志岡君が、日本高等学校ゴルフ連盟日本代表選手として参加します。

なお、久志岡君はこの大会に選出されたことから、6月中旬に開催される「世界ジュニアゴルフチーム選手権大会」の日本代表選手候補となります。

日韓対抗戦では、是非、日頃の練習成果を発揮してほしいものです。



先生に励まされ会場へ向かう

## 準備万端

### — 大学入試センター試験 —

受験生には、クリスマスも正月もありません。大学一般入試へ向けて、受験勉強に一層の拍車がかかります。

1月16～17日の二日間、今年も広島国際学院大学の中野キャンパスを会場にセンター試験が実施され、わが高校からも50名近くの生徒が受験しました。今年的一般受験生徒の特徴として、国公立を目指すものが多

いこと、とりわけ医歯薬系を受験するものが増えたことが挙げられます。さらに、この数年、普通科一般コースからの国公立受験も増加傾向にあるようです。

試験当日の朝はかなり冷え込み、中野キャンパスは一面の霜で真っ白でした。そんな寒さの中、受験生の応援に本高校から20名もの先生が、早朝の7時頃から駆けつけ、「頑張れ 広島国際学院」と染め抜かれた旗を振り振り、試験会場へと見送りました。先生方の温かい励ましを背に受けて、笑顔で会場へ向かう姿に、「準備万端」の4文字が重なりました。

## 元校長の定本先生と川田先生がご逝去

元高校長の定本広文先生が、去る1月30日ご逝去されました。85歳でした。先生は昭和31年より広島電機高校(現広島国際学院高校)で教鞭をとられ、昭和48年から52年にかけて校長を務められました。その後本大学に異動され、学生部長としてもご尽力いただきました。また大学の校名変更に伴い、新しい大学学歌を作詞していただきました。朝日新聞日曜版の朝日ひろしま柳壇の選者としてもご活躍されました。

また、2月13日には川田基元<sup>もと</sup>高校長がご逝去されました。81歳でした。先生は昭和27年より広島電機高校(現広島国際学院高校)で教鞭をとられ、昭和52年から62年にかけて校長を務められました。本大学に異動後は、事務部長として文部科学省への申請業務等に携わられました。ご退職後も引き続き本法人評議員としてご尽力いただいていた。先生方のご冥福をお祈りいたします。

## 女子学生頑張る

# CLP (キャンパス・ライフ・プロジェクト) 活動で知る「自ら動く大切さ」

工学部 総合工学科 バイオ・リサイクル専攻 3年 山根 虹子 (広島観音高校出身)

私はキャンパス・ライフ・プロジェクト活動(CLP活動)をしています。この活動は、学生が快適に過ごせる大学をデザインすることを目的としています。現在は、10名のメンバーで、中野キャンパス6号館1階の6102実験室とその周辺区域を、学生談話室などの「学生 憩いの場」にするために活動中です。

CLP活動では、自分たちで企画や立案をしていきます。学生のうちに、このような経験ができることは貴重なことだと思います。しかし、経験のない分、悩むことも少なくありませんでした。特に、メンバーみんなの考えをまとめていくことは大変な作業でした。それでも、団結して何かを作り上げていくことは、とても楽しく、有意義に感じました。私は活動を通して、自分から動くことの大切さを知りました。いつか誰かがやってくれるだろうと待っているだけでは、このような経験はできなかったと思います。失敗しながらでも、目標に向かって頑張っていくすばらしさを実感できました。

今後、自分たちの活動の結果がどのように現れるか、少し不安ではあります。ですが、どんな結果でも、良い経験のひとつであり、これからの糧にしていけると思います。そして、CLP活動だけではなく、さらに色々な活動へ積極的に参加したいです。このCLP活動で知った自ら動いていく姿勢で、物事に取り組み、新たな経験を積んでいきたいと思っています。



CLP活動に取り組む山根さん(中央)

## 施設紹介

### ものづくりセンターの開所

本大学では「ものづくり教育」や「地域産業との産学連携」を更に発展させるために、21年度から旧原動機実験室を大改修して「ものづくりセンター」の設置工事をしていましたが、3月末でソーラー発電装置も完成し、新学期から本格的な利活用ができることになりました。

この「ものづくりセンター」には、各種素材の加工設備を設置した工作コーナー、バイオ燃料の研究やソーラー発電・電気自動車等の環境・省エネルギー教育研究コーナー、本大学の各学部における研究成果を一堂に紹介する展示コーナー等が整備されています。

また、地域産業の技術者再教育・技術指導、高大連携による実験系授業の実施、地域公民館との共催による小中学生の理科教育等を実施して、地域の技術振興と活性化を支援することになっています。

### ゲーム室(通称) —ゲーム制作の事例・技法を学ぶ環境整備—

情報デザイン学科メディア・エンターテインメント専攻の発足当初からの念願である「ゲーム室(通称)」が2010年2月に完成しました。



ゲーム室内部

設置機器としては、最新の家庭用ゲーム機器であるWii(任天堂)2台が100インチスクリーンにより、PS3(SONY)2台とXbox360(Microsoft)1台が42型フルハイビジョンテレビにより体験できるようになっています。また、1978年から数年間、大変な人気を博していたテーブル筐体式のインバーダーゲームが体験できるようにも展示しています。さらに、ファミリーコンピュータなどの一世を風靡した家庭用ゲーム機器を展示すると共に体験できるようになっています。これらの家庭用ゲーム機器を体験することにより、どのようなゲーム分野がどのように発展したのか、ゲームの特徴や流行した要因など、身をもって実感できることとなります。



ものづくりセンター外観





秋葉広島市長から賞状を受け取る佐々木教授（左）

平成21年「広島市民賞」を、本大学学生を主体とする広島銘水研究会が受賞しました。12月22日に広島市役所市長公室で行われた授賞式で秋葉忠利市長から賞状を授与されました。代表である工学部の佐々木健教授と学生代表宮原<sup>あきら</sup>君(工学研究科修士2年・崇徳高校出身)および社会人代表の森川<sup>ひろ</sup>博代氏と3人で出席しました。広島東洋カープの緒方孝市<sup>まさもと</sup>コーチや、ズッコケ3人組で有名な那須正幹<sup>まさもと</sup>さんら個人5名、団体6団体も同時受賞でした。

広島市民賞は市民に夢と希望とやすらぎを与え、元気な広島、住みよい広島をつくるために寄与した人に授与されるものです。広島銘水研究会の22年にも及ぶ活動、つまり原爆記念日に犠牲者の霊を慰めるため献水される水の水質調査活動が評価されました。この「原爆献水市中15箇所の湧水、沢水の水質の調査活動の継続」は、平成21年6月に日本水大賞審査部会特別賞を受賞しましたが、この受賞も大いに評価していただいたとのことです。

原爆献水の保全是平和を祈念する活動であり、同時に平和学習でもあります。さらに、水質の22年間にも及ぶ定点観測は、環境保全にも大いに役立つ貴重なデータとなっています。ヒロシマの水環境がどのように変化したのか、どうすれば水質汚染は防げるのか、平和祈念と環境保全は広島では同じであるなど、この活動からいろいろな貴重な情報や環境の変遷を読み取ることができます。広島銘水研究会会員は今後もこの受賞を励みとして、水質分析活動を継続する所存です。

# 広島市民賞を受賞

— 広島銘水研究会 —

## 本学院学生生徒の活躍

— 栄光を称える —

### 【大学・短大】平成21年度部活動成績

サークル名	受賞者	出場大会名	成績
バスケットボール	団体	第35回中国大学バスケットボール春季優勝大会	第5位
	団体	2009年広島県学生バスケットボール選手権大会春季リーグ戦	第2位
	団体	広島県学生バスケットボール大会新人選	第3位
	団体	第35回中国大学バスケットボール秋季優勝大会インカレ予選	第3位
	団体	2009年広島県学生バスケットボール選手権大会秋季リーグ戦	第1位
	板垣 公輔（4年 広島県瀬戸内高校出身） 板垣 公輔 苅谷 亮毅（1年 呉高校出身）	第35回中国大学バスケットボール秋季優勝大会 2009年広島県学生バスケットボール	3P王 最優秀賞 新人賞
アーチェリー	団体（才原、炭本、杉本）	第39回中国四国学生アーチェリー王座決定戦	優勝
	団体（才原、炭本、杉本）	第48回全日本学生アーチェリー王座決定戦	第9位
	才原 光平（3年 可部高校出身） 炭本 拓郎（3年 県立広島工業高校出身）	第39回中国四国学生アーチェリー個人選手権大会	優勝 第3位
	洲之内淳平（1年 可部高校出身） 三好 広幸（1年 愛知産業大学三河高校出身） 伊藤 潤治（1年 広島県立吉田高校出身）	第39回中国四国学生アーチェリー新人選手権大会	第2位 第5位 第9位
	炭本 拓郎 佐々木勇一（4年 可部高校出身） 杉本 達哉（4年 魚津工業高校出身）	第14回中国四国学生アーチェリー室内個人選手権大会	優勝 準優勝 第4位

### 【高校】平成21年度部活動成績優秀者理事長表彰

部名	受賞者	出場大会名	成績
レスリング	坂野 修平（3年 海田西中学出身） 寺尾 浩幸（1年 西条中学出身） 坂野 修平（3年 海田西中学出身） 白雲 央樹（2年 高屋中学出身）	JOCジュニアオリンピック全日本ジュニアレスリング選手権大会 全国高等学校体育大会レスリング 全日本ジュニアレスリング選手権大会 中国高等学校レスリング大会	第2位 第5位 第2位 第1位
	団体 村山 駿（1年 昭和中学出身） 長谷川祥平（1年 大野東中学出身）	第26回中国高等学校ゴルフ選手権大会 中国ジュニアゴルフ選手権大会	第1位 第1位 第2位

平成21年度

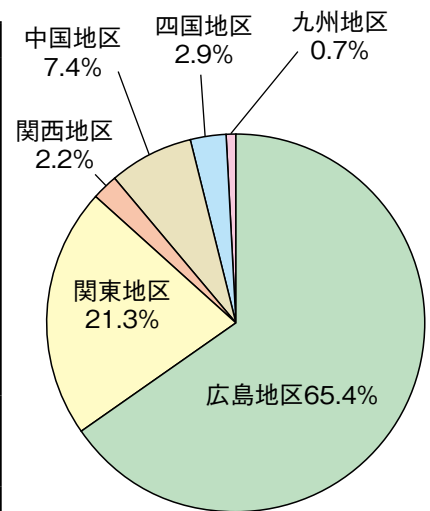
# 広島国際学院大学進路状況

平成22年3月19日現在

- 厳しい国際競争のもとで企業が求める「目的達成能力」、「問題解決能力」のある人材の育成に努めています。
- 従来から元気で実践力のある学生を育てており、実社会での活躍が評価され近年約24倍以上の求人倍率を得て、高い就職率を達成しています。
- 就職模擬試験をはじめ面接・作文の指導など、学生の就職活動を教員と就職課がきめ細かくサポートします。

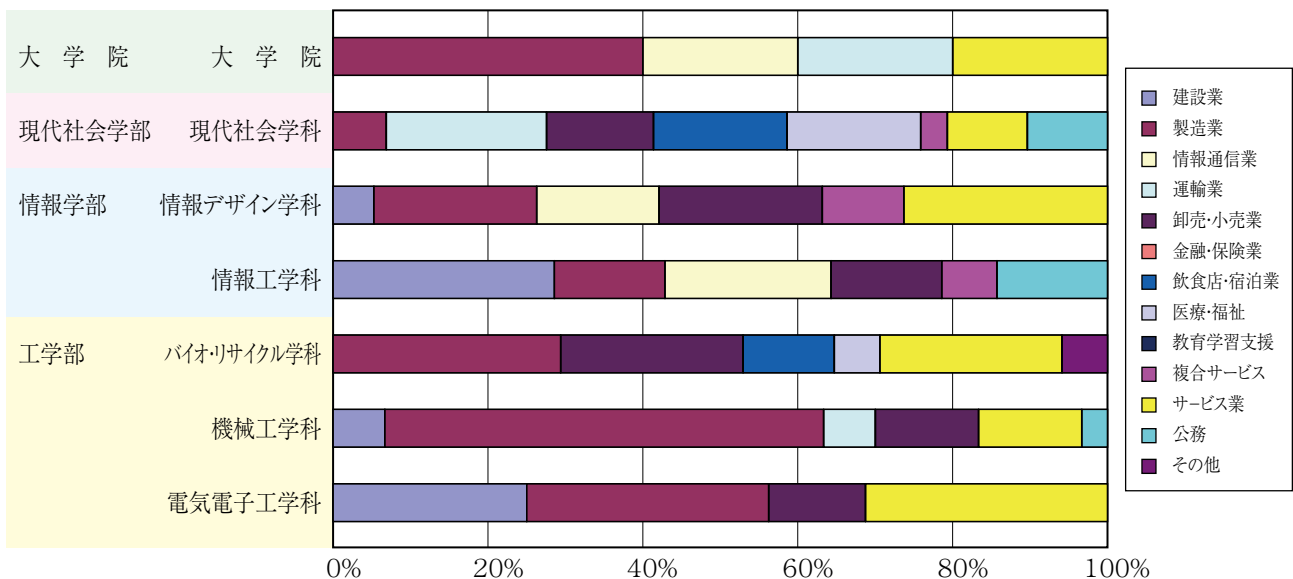
## 主な就職先

	工学部	情報学部	現代社会学部	大学院
広島地区	(株)エディオンWEST (株)中電工 中電プラント(株) (株)長沼電業社 (株)ソルコム (株)中国日立 (株)神田造船所 マロックス(株) 向島ドック(株) JFEスチール(株)西日本製鉄所 日鋼設計(株) 昭和金属工業(株)	(株)エディオンWEST (株)中国新聞システム開発 (株)日立中国ソリューションズ 広島市農業協同組合 広島中央農業協同組合 陸上自衛隊 (株)にしき堂 東広島市消防局 (株)メンテック	シモハナ物流(株) (株)バルコムモーターズ 西日本リネンサプライ(株) (株)ロジコム (株)ムロオ (株)スパーク 合同呉運送(株) 社会福祉法人 白寿会 医療法人社団 ひがしの会 鮮コーポレーション(株) イワタニ山陽(株) (株)日興ホーム	(株)モーツアルト デルタ工業(株) 安芸情報システム(株) MHIソリューションテクノロジーズ(株) (株)ワイエスデー
関東地区	(株)サンテック 三菱電機ビルテクノサービス(株) (株)新来島どつく	(株)協和エクシオ 昭和アステック(株) 郵便事業(株)	(株)エイチ・アイ・エス (株)モンテローザ 東京消防庁	サンテン(株)
関西・東海	愛三工業(株)	トリオシステムプランズ(株) 大和冷機工業(株) 西日本電気テック(株)	大和冷機工業(株)	
中国・四国	大黒天物産(株) 愛媛県西条市役所	大黒天物産(株) (株)川西水道機器	安芸農業協同組合 社会福祉法人 恒和会	



地区別就職先

## 業種別就職状況





平成21年度

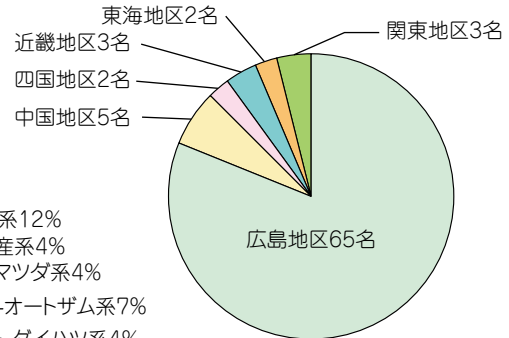
# 広島国際学院大学自動車短期大学部進路状況

平成22年3月19日現在

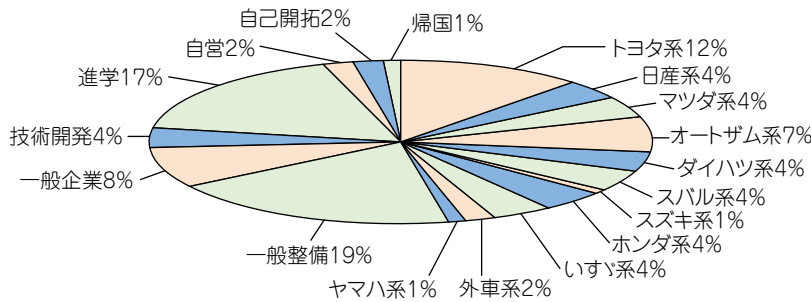
## 進路状況

卒業生数	83名
就職決定者/希望者	66名/66名
進学決定者/希望者	14名/14名
自己開拓等	3名

## 地域別進路状況



## 卒業生の進路内訳



平成21年度

# 広島国際学院高等学校進路状況

平成22年3月19日現在

学 科	性 別	在 籍	進 学				就 職					
			大 学	短 大	専 門	未 定	県 内	県 外	公 務 員	自 営	自 己	未 定
総合システム科	男	70	47	2	7	2	9	0	1	0	2	0
	女	42	14	7	12	3	2	1	0	0	3	0
普 通 科	男	98	75	2	6	12	2	0	0	0	1	0
	女	122	56	19	32	4	5	1	0	0	5	0
合 計		332	192	30	57	21	18	2	1	0	11	0
		%	90.4				9.6					

## 大学・短期大学 合格先

	大 学	短 期 大 学
中四国	広島大、県立広島大、徳島大、比治山大、広島経済大、広島工業大、広島国際学院大、広島国際大、広島修道大、広島女学院大、広島都市学園大、広島文化学園大、広島文教女子大、福山平成大、安田女子大、日本赤十字広島看護大、徳島大、岡山理科大、吉備国際大、倉敷芸術科学大、徳山大、四国大	山陽女子短大、鈴峯女子短大、比治山大短大部、安田女子短大、広島文化学園短大、広島国際学院大自動車短大部
その他	長崎大、兵庫県立大、同志社女子大、京都学園大、京都嵯峨芸術大、京都成美大、立命館大、神戸芸術工科大、甲南大、神戸女学院大、大阪体育大、追手門学院大、近畿大、西南学院大、福岡医療福祉大、城西大、中部学院大、東京国際大、東海大、明治大、明星大、立教大、青山学院大、神奈川大、女子美術大、北陸大、松本大、朝日大、桃山学院大、同志社大、愛知学院大、名古屋商科大	大阪国際大短大部、龍谷大短大部

## 専門学校 合格先

IGL医療専門、穴吹デザイン専門、エンゼルペットアカデミー、広島ファッションビジネス専門、呉市医師会看護専門、専門福祉リソースカレッジ広島、トリニティカレッジ広島医療福祉専門、広島医療秘書こども専門、広島医療保健専門、広島市立看護専門、広島外語専門、広島県厚生連尾道看護専門、広島高等歯科衛生士専門、広島歯科技術専門、広島公務員専門、広島情報ビジネス専門、広島コンピュータ専門、広島酔心調理製菓専門、広島美容専門、広島県理容美容専門、総合学園ヒューマンアカデミー広島校、広島福祉専門、広島会計学院電子専門、広島ビジネス専門、専門マインドビューティカレッジ、岩国YMCA国際医療福祉専門、岡山労災看護専門、順正高等看護専門、岩国医療センター附属看護専門、島根県立石見高等看護学院、大阪スクールオブミュージック専門、専門ESPエンタテインメント、福岡ECOコミュニケーション専門、美萩野臨床医学専門、中日本航空専門、国際観光専門名古屋校、芳じゅ女学院情報国際専門、東京スクールオブミュージック専門

## 主な就職先

(株)中電工、西日本旅客鉄道(株)、新明和工業(株)特装車事業部広島工場、ダイキョーニシカワ(株)、(株)伯和、広越(株)、(有)瀬野川鉄工所、(株)ロジコム、シグマ(株)、シー・エス・ビー、中国精機(株)、(株)キーレックス、(株)ワイテック、カヤ工業(株)、大成石油(株)、(株)ビストロフーズ、医療法人せのがわ、(有)サロン・ド・シャイ、自衛隊

## 大学機関別認証評価（第三者評価）認定される

学長 奥田 勉

学校教育法の改正により、平成16年度から全ての大学に認証評価機関が実施する評価を受けることが義務付けられました。本大学は平成21年度に(財)日本高等教育評価機構の評価を受審しました。その結果、平成22年3月末に評価機構の大学評価基準を満たしていると認定(認定期間は平成28年3月31日まで)されました。

平成17年度の第1回自己点検・評価委員会で平成21年度受審が決定し、平成18年度に3部会(教育研究部会、学生生活部会、管理運営部会)が発足し、活動を開始しました。平成19年度に叩き台の自己評価報告書とデータ編を作成し、平成20年度にそれを参考にして正式な報告書の作成を開始しました。12月末からは3部会長(檜高、奥田、今田)が各部会の原案や、理事長、学長、学部長、事務局長等の内容訂正に基づいて自己評価報告書・本編及びデータ編を完成させ、平成21年6月末に評価機構に提出しました。評価チームからの書面質問に対する回答及び追加資料を10月に送付し、11月25～27日に実地調査を受けました。その後、調査報告書案及び評価報告書案への意見申立てを経て3月末に評価結果を受領しました。評価は合格ですが、幾つかの評価基準では参考意見や改善を要する点の指摘を受けています。今後これらの事項に対しては積極的に改善努力を続け、本大学の発展を目指すことが何よりも大切なことです。

### 学生講師、どきどきデビュー — 全国初、大学生による薬物乱用防止教室 —



亀山南小学校で行われた教室の様々。  
左から久米紀夫さん(工学部1年・広島国際学院高校出身)、丸谷さん、苗さん

「先日は、お忙しい中、私達のために薬物のおそろしさについてお話していただきありがとうございました。大学生の方々の説明はとても分かりやすかったです。これから先、薬物に手を出さないように、すすめられてもちゃんと断ろうと思います。」

上は去る1月12日に薬物乱用防止教室を実施した広島市立伴南小学校の6年生児童の感想文です。本大学現代社会学部3年の郷呂祐人さん(広島国際学院高校出身)と澄川大輔さん(広島国際学院高校出身)、工学部4年の丸谷知香さん(尾道工業高校出身)の3名が、学生として初めて講師を務めました。

1月8日には、広島フェニックスライオンズクラブの方も立ち会い事前勉強会を行いました。人前で、しかも分かりやすく説明する難しさを痛感していましたが、無事大役を果たし一定

の評価をいただきました。広島市立安西・毘沙門台・亀山・亀山南の各小学校でも講義し、初年度の取組を終りました。

試行錯誤を繰り返した1年間、多くのマスコミで取り上げられ社会啓発の一助になったのではないのでしょうか。大学で全国初の試みに、今後も息長く取り組んでいきたいと思ひます。以下は学生の感想です。

「薬物の問題が大きく取り上げられ、小・中学生も意識が高まっている今、薬物乱用の恐ろしさを伝える良い機会だ。子ども達の未来のために、薬物乱用は『ダメ・ゼッタイ』を訴えていきたい」(吉本真実さん 工学部3年・県立広島工業高校出身)

「活動に参加するうち、薬物の恐ろしさを深く認識した。特に子ども達の判断力は弱く一度乱用に堕ちると人生を壊してしまう。これは薬物乱用を根絶するための最も良い方法だと思ひます」(苗慧さん 工学部1年・中国遼寧省出身)

#### ★ 今後の主な行事予定

(赤字は公開行事です)

大学・短大 入学宣誓式 (4/5) 初年次教育 (大4/6～7)  
 在学生ガイダンス (大4/6～7 短4/6)  
 新生オリエンテーション (大4/8～9 短4/6～7)  
 前期授業開始 (大1年4/12 2～4年4/8 短1年4/8 2年4/7)  
 オープンキャンパス (短6/27)  
 高校 始業式 (4/7) 入学式 (4/8) 新生集団合宿 (5/21～25) 体育祭 (6/19)

この広報誌はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

平成20年度事業報告(含む財務の概要)はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/kikaku/soumu/H20houkoku.pdf>

高校生以上の方に図書館を開放しています。詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536